



地図を見ると船が横付される工場群が川筋に並び、おいそれと橋が架けられず、高所を渡ってゆく橋を見上げれば、船の渡しの方がはるかに早く便利なのです。

自転車も一緒に乗れる渡しは通勤・通学・買い物そして近年は観光にも。



私にとってはいつも頭の片隅にしまいおかれている場所。

大阪市に勤めていた父が、退職後2度の勤めで通ったのが、大正橋の木津川沿岸で仕事する小さな会社の集まりの協同組合で、「大正橋」「三軒家」「泉尾」「天保山」「築港」・「安治川」「市岡」「野田阪神」「九条」などの大阪港周辺の地名には今も親しみを感じている。でも、その大半には名前ほど街中を意識して歩いたことがない。

また、大阪港の渡しには何度となく連れて行ってもらったが、その場所についての記憶もほとんどない。

みんな遠い小さなときの記憶で 名前・地名ほどにははっきりした記憶はない。

また、大学4年の夏現場実習で日立造船・築港工場に約1ヶ月通ったのですが、そのすぐ横にも船町の渡船場がありました。

インターネットで、大阪港の渡しのマップを見つけ、地図を引っ張り出して、今も残っている大阪港の渡し並びに港の街歩きをやってみたくと地図に 「自分の記憶を呼び起す大阪港の渡し巡りのコースを作りました。

大阪港の渡し巡りの WALK 快晴になった10月27日の朝 神戸を出て阪神電車なんば線に乗り、スタートに決めた JR 西九条駅へ。 一日大阪港の渡し場巡りで撮った大量の渡船場周辺の Photo。

またどこかで記憶を呼び起す材料になればと独りよがり的大阪港の渡し walk の photo album のファイルです。



### 神戸から阪神なんば線で西九条駅で USJ 人気の路線JRゆめ咲線終点の桜島駅下車 桜島駅から大阪港の渡しwalkをスタート

JR桜島駅 → 安治川天保山渡船 → 尻無川甚平渡船 → 尻無川河口北港千歳渡船 → 木津川運河船町渡船  
→ 船町から市バス北側の恩加島へ戻る → 木津川落合下渡船(往復) → 木津川落合上渡船(往復) →  
→ 大正通・泉尾からバスで北の三軒家経由JR大正駅

大阪港にはほかに

◆船町から木津川河口を渡る木津川渡船 ◆南恩加島から西成へ木津川を渡る千本松渡船  
2つの現役渡船場も残っているが、今回は尻無川と木津川に挟まれた大正区の街中も歩きたくて、  
パスしました。









緑色の大阪ドームが見えてきて、地下鉄新橋の駅前に 11:35.  
ここから右へ折れて東へ 街中を尻無川の甚平渡船場へ



尻無川 港区側 甚平渡船場 2017.10.27. 11:55



**【4】尻無川の甚平渡船場 尻無川を東に渡って大正区北恩加島へ  
そこから南へ町中を抜けて 北恩加島の南西端 千歳橋の袂 千歳渡船場へ**



尻無川 港区側 甚平渡船場 真向いが大正区側の甚平渡船場



尻無川 港区側 甚平の渡船場 2017.10.27

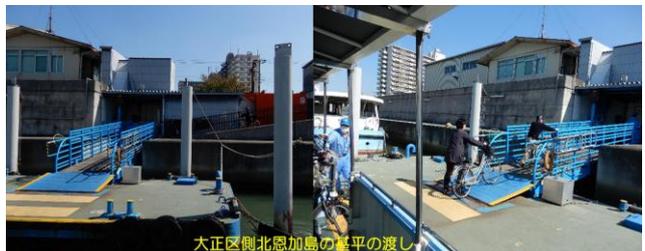
大阪環状線からかま見える尻無川のアーチ水門 こんな良だったのだ



渡船に乗って対岸へ 川の中央から南側を眺める...12:02  
尻無川の両側には川に沿って工場岸壁が並び、接岸した船の荷下ろしクレーンなどの機械が忙しく働いているのが見える。



尻無川の水門の奥 大正橋の手前あたりでしょうか？ 川が右へカーブしているが、その付近一帯の岸に貨物船でしょうか いくつも並んで接岸しているのがみえる。大阪の港が今も川筋を遡って、奥に広がっていることがわかる。平面をつなぐ低い橋が架けられぬ事情がよくわかる場所だ。



大正区側北恩加島の甚平の渡し



大正区側の甚平の渡船場  
まっすぐ南北の広い通りに出るとマンション群が立ち並ぶ住宅地 商店街は斜線的。



甚平の渡しから尻無川の河口にある千歳渡船場へ 12:07

この広い通りをまっすぐ南へ下れば、南恩加島の南西端、北恩加島から南の鶴町へ渡る独特の形をした千歳橋が見えてくる。また、「泉尾」の地域標識にも目が行く。トラックに書かれた「泉尾」の文字など名前だけがよく知る「泉尾」である。大正区のと真ん中 このあたりが「泉尾」なんだと。



北恩加島から安治川河口を南の鶴町へ渡る高架橋 千歳橋の入口  
橋を渡らず左手の側道を行くと北恩加島の南西端、尻無川河口から南の鶴町へ渡る千歳渡船場の島の狭い場所で高い位置で河口を渡る橋をかけるため、道路はいったん右にカーブしてから左へ再度カーブして橋を渡ってゆく。



尻無川の河口を北恩加島から南の鶴町へ渡る千歳渡船場前 2017.10.27



尻無川河口を中心に広がる大阪北港の広い海面を千歳橋が鶴町の島へ渡ってゆく。右手には天保山から南港へ渡る南港大橋。また、鶴町へ渡るなみはな大橋が見える



尻無川の河口を北恩加島から南の鶴町へ渡る千歳渡船場前 2017.10.27. 12:22

**【5】千歳渡船場の横から 同じく南の鶴町へ安治川の河口を渡る大きな千歳橋の歩道を歩く  
非常に高い場所を渡る橋 生活道路として使う困難さの体験と大阪港の内向を高所から眺める**



千歳橋はここなので、船渠開闢の甲斐や千歳橋の上など周辺を歩くことが出来た。2017.10.27  
船渠開闢後大正内港の歴史。北の上流側、右岸の河口側へ渡る千歳橋



千歳橋は大正区鶴町一丁目、北恩加島側への架橋により、市内中心部への交通を確保し、市内中心部へ渡るための鶴町地区の交通の便を改善するとともに、東側にある大正区大正通の交通道路を確保する目的で架設された。この橋は、歩行者や自転車の利用には不便なことから、道路は橋渡後にも存続されている。便利になったとはいえ、この橋を毎日歩くとなると本当に大変だ。でも、高いので橋の上からは大阪港が360度見られる。



南西の大阪南港 南港大橋を眺める

東南 大正内港から右衛門新木津川大橋

東北側 大正内港 新橋に生駒山から分岐する 千歳川 右衛門新木津川大橋  
2017.10.27. 大阪北港の渡し巡り 尻無川河口 大正内港に架かる千歳橋より周辺を眺める



南港大橋を眺めるのも本当に久しぶり 尻無川河口大正内港に架かる千歳橋より 2017.10.27.  
赤い鉄骨の南港大橋の手前にコンクリートのなみはな大橋が見えている



西六甲の山からはかすんで見えなかった二上山・葛城山・金剛山が木津川河口の港の向こうに見える。  
何度もトライしたこの秋、やっと二上山が見られた。尻無川河口大正内港に架かる千歳橋より2017.10.27.



千歳橋の上から大正内港 そして 南恩加島・鶴町の工場地帯を眺める 2017.10.27.  
右端に鶴町の南 船町から南港へ渡る新木津川大橋が見えている。  
大阪北港の中心部大正区から南港へ渡る大阪港の大動脈である。



橋の中央部から渡船場へ行くとどきどきした大正区の色。尻無川と木津川に架かる千歳大橋の北港の中心部。川の沿岸には倉庫や工場があるが、中心部はどきどきした住宅が建ち並ぶ。船町もそうですが、大正区は中心部。なまめがた(阪国)の町並みも人気があり、観光客も訪れていることがよくわかる。 渡船場がいよいよ渡るの行きの丘といえる。



千歳橋の上から南の鶴町を眺める。尻無川河口の岸壁の向こうに大きなマンションが群衆を。ここも渡船場と北港とが併存している。



千歳橋の上から鶴町の工場地帯を眺める 2017.10.27.

【6】北恩加島の千歳渡船場から尻無川の河口・大阪港大正内港を南の鶴町へ渡る  
そこから鶴町の街を南へ歩いて、木津川運河を南の船町へ渡る船町渡船場へ



南の鶴町渡船場が船町渡船場です。3分程度川を渡ると、南の鶴町へ渡る。 12/26

北恩加島から鶴町へ千歳の渡しを渡る。北の恩加島・千歳橋側の景色。 2017.10.27.

北恩加島から鶴町へ千歳の渡しを渡る。船町の景色。 2017.10.27.



北尾加島から南へ京氣川河口を南へ渡った鶴町側千歳渡船場 2017.10.27. 13:03  
下ぐとの高層ビルを背景に渡り、やっぱり、この高い橋を渡るのは大変!



鶴町側千歳渡船場横から、今渡ってきた眺めた大阪北港(内港) 2017.10.27.



鶴町側 千歳渡船場 2017.10.27. 13:03



**鶴町側千歳渡船場から南の船町へ木津川運河を渡る船町渡船場へ**  
 次の船町渡船場へは鶴町の市街地を南へ抜けてゆく。途中コンビニに入って、握り飯と水を買ってばくつきながら歩く。南港地区を除けば、大阪港の一番南の場所である。都心からずいぶん離れているとの感覚なのですが、地図を見ると難波に近い。多くの人が港と共存して暮らしているのだと。はっきりなしにバスが追い抜いてゆく。



次の船町渡船場へは鶴町の市街地を南へ抜けてゆく。途中コンビニに入って、握り飯と水を買って、ばくつきながら歩く。南港地区を除けば、大阪港の一番南の場所である。都心からずいぶん離れているとの感覚なのですが、地図を見ると難波に近い。多くの人が港と共存して暮らしているのだと。はっきりなしにバスが追い抜いてゆく。学生時代夏の1ヶ月工場実習で船町の造船所に大阪駅から市バスで30分だったかかけて、船町の工場に通ったときに、大正・泉尾・恩加島と大阪港の街中を抜け、工場街に入り、この鶴町の名前を知った記憶がある。船町もふくめ、街の記憶は全く薄れているが...



鶴町1丁目のバス停のところに船町渡船場の案内標識で南に折れてまっすぐ行くと船町渡船場 防潮堤に突き当たる。私の記憶では鶴町は工場街とあるのですが、四方を川と運河に挟まれ、防潮堤と港施設・工場が取り囲み、出口は北のみの大阪港南端に大阪の下町が今も広がっているのにびっくり。



千歳渡船場から20分ほどで、木津川運河を南に渡る鶴町側船町渡船場 2017.10.27. 13:31  
 目の前に木津川運河が流れ、対岸の船町は中山製鋼の鉄の街

【7】 鶴町の南側 木津川運河沿いの船町渡船場

大阪港(北港)の最南端 船町に渡り、西船町からバスで大正区の中央へ戻り、木津川川沿岸へ



木津川運河を南に渡る鶴町側 船町渡船場 2017.10.27.

記憶にはほとんど残っていない周辺の様子 大阪駅からバスで通い、工場の門のすぐ横に船町の船着き場があったはず。渡船を待っているおじさんに船町の船着き場のすぐ横に「日立造船の築港工場があったのが・・・」と話しかけると「運河の右手側のビルなどの一角が日立造船。それ以外は中山製鋼の鉄の街。 中の様子はすいぶん違うよ」と教えてもらう。また 日立造船の工場が「築港」の名前とともに残っていることにびっくり。



木津川運河を南に渡る鶴町側 船町渡船場 2017.10.27.



鶴町 → 船町

木津川運河を鶴町側から南の船町へ渡る 渡船から東の市街地側 2017.10.27.  
奥に船町から北の鶴町へ 工場地帯と市街地をつなぐ唯一の橋 大船橋が見える



船町 ← 鶴町

木津川運河を鶴町側から南の船町へ渡る 渡船から西の南港を眺める 2017.10.27.  
木津川運河の奥に南港のトレードセンタービルが遠望されている

ふと気になって 船町にある日立造船が「築港工場」とよばれるのわを考えてみる。この鶴町・船町は天保山が、外航船が接岸できる「海港」として、整備される「築港プロジェクト」の中で、埋め立て整備されたのが、理由ではないか……??

外航船が接岸できなかった明治初めの大坂港。明治から昭和にかけて外航船が泊まれる海港づくりの大プロジェクト「築港」づくりが行われる。天保山を中心に当時の沿岸の埋め立てや堀削がおこなわれ、木津川から安治川河口整備。「海港 築港」の一大プロジェクト。その中心の天保山で大阪では「この海港を広く「築港」と呼び、今も天保山には「築港」の地名がある。この時に当時の沿岸にある船町・鶴町の島が同時に埋め立て整備され、それらの島の整備も「築港」とよばれ、その名残が日立造船築港工場の名前となって残っているようだ。また、大きな街として残る鶴町地区は築港の名が消えていったのかもしれない。



木津川運河を南に渡って 船町側 船町渡船場 2017.10.27.



船町側 船町渡船場前の通り 2017. 10. 27. 工場地帯の昼下がり。人の姿は全くなし  
 一般種がめたかつた日立造船船渠工場前 おぼろげにおぼえている。でも 中は全く記憶なし。  
 保安へ行って、工場概要をお願いしたのですが、なしと、日立造船の変貌とどうも関係も大きく  
 変わりの、いまここに かつて桜島にあった研究所があると、  
 ここにあった建物の工場で実習しましたが、もう遠い過去に・・・



西船町のバス停前 2017. 10. 27. 13:48  
 道が十字に北へ折れる角に市バスが見える  
 大正駅の標識にかつて通ったバスと昔のことがよみがえる



船町から大正区の大通りを北へ  
 大正区の東側を流れる木津川にある落合下・上の渡船場を巡りJR大正駅へ 13:52



Google photo



右側中山製鋼と書かれた建物  
 西船町バス停前 Google photo



東を木津川 西を釜無川に挟まれた細長い大阪北港の中心地大正区。  
 その南端 西船町から北の大正橋まで 大阪北港の中央を貫く大正通りをまっすぐ北に  
 バスで向かう。学生時代 大阪駅から西船町まで 工場実習で通った路線である。  
 北恵加島の平尾町のバス停で下車。  
 そこから東の木津川と大阪の市街地西成区とを結ぶ落合下・上二つの渡船場を巡り、  
 大正橋へ戻って、今回の大阪港渡船場巡りの終りにする。  
 船町は人家がない中山製鋼の鉄の街 バスは鉄の工場群の中を北へ抜けてゆく



木津川運河にかかる大船橋 木津川運河の先に船町渡船場のあたりが見える

大正橋の交差点を過ぎ、南恵加島にはいり、平尾のバス停で降りて、  
 木津川へ向かって前方の横断歩道を渡り、平尾の街中へはいる。13:55

Google photo

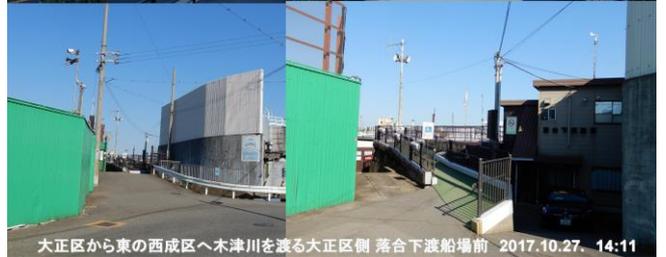
【8】大正区の中央 平尾のバス停で降りて、大阪港の一番東側を流れる木津川へ  
木津川を東の市街地西成区へ渡る落合下・落合上渡船場



T字路を北に回り込んだところに木津川の防潮堤「落合下渡船場」の案内板があり、東へ入る。



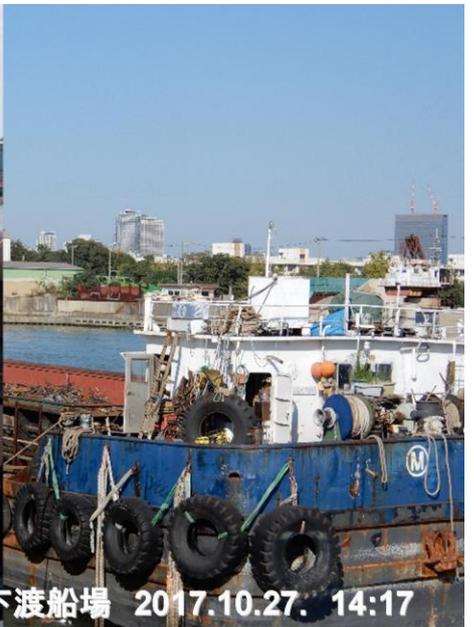
南北の大通り大正通の平尾バス停で降りて、まっすぐ東へ木津川へ向かって歩く。13:56  
落合下渡船場はもう少し北側なので、ジグザグに街中を通り抜け、市営小林住宅のアパート群の間を抜け、小林公園の横を過ぎるとドン付きのT字路に ←落合下渡船場の案内板。



大正区から東の西成区へ木津川を渡る大正区側 落合下渡船場前 2017.10.27. 14:11



大正区から東の西成区へ木津川を渡る大正区側 落合下渡船場 2017.10.27. 14:17



西成区側 落合下渡船場



大正区から東の西成区へ木津川を渡る大正区側 落合下渡船場 2017.10.27. 14:17  
もう少し大正区側を歩きたかったのですが、向かいの渡船場で降りずにそのまま引き返しました。



大正区側 落合下渡船場



大正区から東の西成区へ木津川を渡る 落台下渡船から北の上流側 2017.10.27.  
落台上渡船場のある三軒家川(左)と木津川(右)の合流点のすぐ上にある三軒家水門とアーチ  
型の木津川水門が見え、港に入った船は木津川水門のさらに奥まで遡る

また、左手奥に西から北へ回り込んでくる尻無川の北にある円形の大坂ドームが見え、  
尻無川と木津川が合流する大正橋あたりの地理関係がよくわかる。



大正区から東の西成区へ木津川を渡る 落台下渡船 復路 2017.10.27.

もう一度 三軒家水門と木津川水門をしっかり、眺める。  
どちらの水門の奥にも数多くの船がはいており、この二つの水門が水路奥深くに入り込んだ港の  
機能を高潮から守る重要な役割を担っていることがよくわかる



大正区から東の西成区へ木津川を渡る大正区側 落台下渡船場 2017.10.27.  
大阪の内港が本当に町の奥深くまで入り込んでいることがよくわかる落台下渡船場でした



西成側対岸の岸壁には石炭だろろうか?いくつか台船が並び、作業中。  
その向こうは太平洋マテリアル関連の工場群 そして その後ろには千本松大橋 2017.10.27.



小林公園のバス停前まで戻り、バス道を北へ落合北の渡船場へ向かう。落合下の渡船場からも見えていた木津川水門の手前のところ。地図によれば、すぐ北の千歳公園のところから東へはいれば落合上渡船場である。すぐ近くである。



千歳大橋から眺めた尻無川河口の内港の東奥に見える丘の森 千歳公園  
万博が開かれた高度成長の時代に地場沈下で機能なくなって南の住之江へ移った貯木場を地下鉄建設などで出た廃土を埋め立て大正区の中心公園として作られたという。丘の山は「昭和山」といい、大正区のシンボル。緑見緑地の鶴見新山ができるまでは大阪市で一番高いところだったという。目指す木津川の落合上渡船場は公園の後ろである。この写真手前の内港は北恵加島町として、千歳公園は千島町。どちらももつ前は島だったのだろう

午前中に南の端 千歳大橋から眺めた千歳公園ほか大正区の北の中心部



大正区の大きな公園 千歳公園 東側入口前 2017.10.21.

西の大正通りからこの通りまで、小さな丘が丸ごと公園になっている大きな千歳公園。公園の東側角の入口のすぐ北の三叉路に落合上渡船場の標識があり、これを東に入ると木津川の防潮堤 落合上渡船場前へでる。



大正区から東の防成区へ木津川を渡る大正区側 落合上渡船場前 2017.10.27. 14:31



木津川を渡る大正区と西成区を結ぶ落合上渡船場 2017.10.27.



大正区側 落合上渡船場のすぐ上流側に、左:三軒家川水門 右:木津川水門 2017.10.27.

【9】西の大正通りへ戻り、泉尾のバス停から JR 大正駅へ出て 大阪港の渡しwalk を終わる



大正区側 落合上渡船場から北へ 水門のあたりを見に行く

落合上の渡しも西成区側で下船せず、往復して大正区側から北へ 今回の大阪港渡船場巡りはこれで終わり。大通りにでず、木津川沿いに水門のあたりまで歩いて、それからJR大正駅に向かう。大阪港にある8の渡船場のうち6つをめぐることができました





三軒家水門の北で、西に折れて、街中を大正通 泉尾南の交差点に出て、ここからバスでJR大正駅に向かいました



大正通 泉尾南の交差点に出て、ここからバスでJR大正駅に向かいました 2017.10.27, 14:50



大阪港の渡し 渡船場巡りの終着点 JR大正駅 2017.10.27, 19:05

### 一日大阪港の渡しを巡るwalk

大阪湾にそそぐ3つの川 西から東へ 安治川・尻無川・木津川の川筋に今も活動がつづく大阪北港。川筋と運河にはさまれた狭い島の中 周囲は川に面した岸壁に直結した工場街そして高架で島を渡ってゆく高速道そして大通り網が島の港の機能の中核を担う。しかし、その中央には多くの人たちが暮らす大阪の下町が今も健在である。ひっそりとした渡し船かと思いましたが、住人達たちの話し声が飛び交い、自転車ごと隣の島へ渡ってゆく。都心から遠く離れた南の離れ小島などの妄想はいっぺんに木々端みじんに。

そんな日常の島の暮らしを支え、街と街をつないできたのが、大阪港さん河川の渡しのネットワーク。一日中渡船も15分~30分間隔で運行され、都市内の市バスの運行間隔と変わらない。今も多くの人たちが行き来する。大阪港の渡し 全く飽きない楽しい渡し場巡りでした。

南港に港機能の主要部が移って、ドンドン疲弊しているのではと思っていましたが、元気な大阪内港の活動にもびっくりでした。また、鉄の街を見る機会がどんどん減って、寂しくなりましたが、ひさびさに 活発に動く川筋にある鉄の街・工場を見ることもできました。ただ、造船所が次々、消えてゆくのはさびしい。

Walkの中で うっすら記憶にある地名が飛び出し、街中を歩けたのも収穫。

街で見かけるトラックの住所はこんな町だったんだなど。親父がよく言っていた木津川沿岸 大正橋 三軒家 築港 天保山 安治川などの地名。そして学生時代の記憶 鶴町・船町もしっかり見えました。安治川口から桜島 USJができてからの変貌そして天保山の変貌にもびっくり。こっちはもう 浦島太郎でした。また、天保山にも登って三角点踏みそして日本丸・海王丸もみれました。

駆け足の大阪港の渡しwalkでしたが、一応予定通り、全部回れましたが、安治川の源平渡し代替地下歩道トンネルと消えた安治川の渡し群 築港ほか地名から見えてくる島々の埋め立てと港整備の歴史等々まだまだ面白いことがあると見える 大阪の渡しwalk。次回はまた別のまわり方をトライしたいと。

また、今回は歩けなかった大正橋から西九条への港地域の北側界限 また次の機会にトライしたいと。知っているようで知らない街歩き。今回もまた、そんなうれしい街歩き。私にとっては昔の記憶を呼び覚ます街歩きでもあり、うれしい私的な写真帳ができそう。楽しい一日でした。

環状線の窓から 大阪内港の船やアーチ型水門を眺めながら  
2017.10.27.午後 Mutsu Nakanishi

**アーチ型水門 河を閉じる水門はどこに 格納されているのだろうか？ 不思議で………  
調べてみて やっとその疑問が解けました**

**アーチ型水門は実際に高潮から守るとき どんな風に閉まるのでしょうか？**

巻き上げ機からワイヤーロープを繰り出し扉体を上流側に90度倒す  
調べると皆同じで、安治川水門の場合の写真がありました

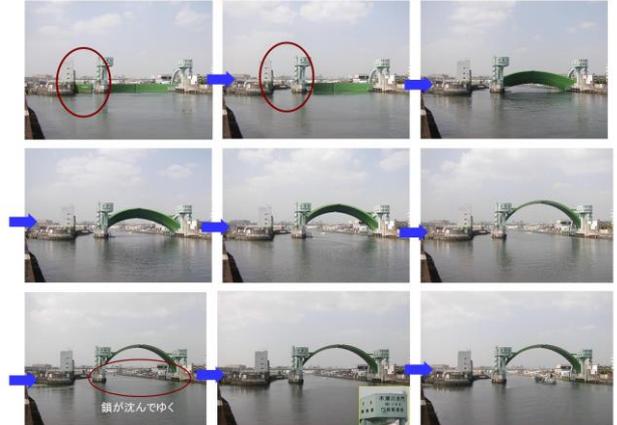


主水門閉鎖作業中 → 主水門完全閉鎖



副水門閉鎖作業中 → 副水門完全閉鎖

【 木津川水門の閉鎖から開門までの例 】



<http://non-chan.sakura.ne.jp/Okkiimono/Okkiimon/VisorGate/VisorGate02.htm> より

**大河 淀川にはアーチ型水門がないのに なぜ 大阪港の3河川にアーチ水門がいるのか？**

大阪の港の3つの安治川・尻無川・木津川になぜ アーチ型水門があるのか、これらの川にはすべて高い防潮堤が張り巡らされているのに、なぜ 高潮対策の水門がいるのか??? と。よくわかりませんでした、水門構造・水門閉鎖の作業・水門構造を知って、それが理解できました。

これらの川の奥に内港があり、数多くの船が停泊している大阪。高潮が発生して、川を遡る潮から川筋の岸壁にいる船を守るのが主用途なんだと。

要は海岸の沖にある波けしブロックの役割と同じで、川を遡る高潮のスピードを殺すのが役割のようだ。

したがって、閉じられる水門は底にはついておらず、海水表面から上へ出ている部分が重要なんだと。

川の水面上昇を抑えるのが主目的ではなく、川を遡る潮のスピードを落とし、急速な川の水面上昇を緩和する目的だと。



したがって 狭い川筋に港がある大阪には重要なんだと。したがって 川幅の大きな淀川には防潮堤は完備されているが、アーチ型水門はないのだと。

間違っているかなあ???





東北側 大正内港 背後に生駒山がかすむ手前 千歳公園 右端にアペノハルカスが遠望  
 2017.10.27. 大阪北港の渡し巡り 尻無川河口 大正内港に架かる千歳橋より周辺を眺める



基平渡船場

落合上渡船場



千歳渡船場

船町渡船場

落合上渡船場



天保山渡船場

基平渡船場

2017.10.27.



大阪港渡船場 2017.10.27.  
 現在も「道」として地域の足